



2021年5月8～9日



GR86/BRZ Race

プロフェッショナルシリーズ第2戦

最後まで噛み合わなかった歯車
大荒れのレースを無傷で終えるも、
無念の16位に

富士スピードウェイ(静岡県)

晴れ 10周(30台)

中山雄一 予選23番手/決勝16位

チーフエンジニア:

高橋 雄大

チーフメカニック:

清水 修

8大会・全11戦で開催される、GR86/BRZ レース プロフェッショナルシリーズに IBARAKI TOYOPET RACING TEAM は中山雄一選手を擁して挑む。第2大会の舞台は、富士スピードウェイ。

このレースウィークは水曜日からサーキット入りして、入念にセットアップを進めていた、中山選手と IBARAKI TOYOPET RACING TEAM。その効果は絶大で、マシンは従来以上に優れるフットワークを得られるようになっていた。最終調整となる金曜日の専有走行では17番手ではあったものの、トップから約1秒差の2分4秒871を記していた。

しかし、この専有走行直後に降った雨でコースが濡らされ、なおかつ土曜日になって温度が急上昇したことでコンディションが激変。公式予選では、ラスト5分間のワンアタックで2分5秒471をマークするも、中山選手は23番手となってしまふ。



「まわりもそうですが、気温が昨日よりも上がって、自己ベストからタイムが落ちてしまいました。練習ではクルマの100%を引き出そうとやってきて、いい感じで積み上げてきたんですけど、トップから1秒以上、差があるし……。もうちょっと前に、あとコンマ5、6秒は上げないと。決勝ではまた違うアプローチをしてみようかと思っています」

(中山雄一選手)

日曜日になると、さらにハードなコンディションに。気温こそ公式予選の頃とほとんど変わらぬ20度だったが、路面温度は5度も上昇して45度と、真夏並みの温度になっていた。

10周で争われる決勝レースにおいて、中山選手は好スタートを切ったものの、混戦状態で飛び込んだダンロップコーナーで行く手を阻まれ、接触を避けるため引いたことで26番手に後退する。しかし、その後はクリーンなバトルを繰り広げ、20位でレースを上げることとなった。上位陣は荒れ模様。そのため、レース後には大量のペナルティ判定があったことから、中山選手は順位を繰り上げて、16位という結果を得ることとなった。レース中のベストタイムは2分6秒776と、上位陣とも遜色なかっただけに、予選での低迷が残念な一戦ではあった。6月12～13日に行われる、オートポリスでのシリーズ第3戦での巻き返しに期待がかかる。

「無傷で帰って来られました(苦笑)。今回はそれがすべて。1周目はBコーナー(ダンロップコーナー)で行き場をなくし、それで順位を落としました。コーナーは遅くなかったです。でも、ストレートが厳しくて……。今回は水曜日からテストして、かなりクルマを煮詰めたつもりだったんですが、もしかしたらクルマも含めセットを変えるかもしれません」

(中山雄一選手)

